

Tassel Assemblage

SOFT TASSEL BINDING
ソフトタッセルの基本



TASSEL & CARTONNAGE

SOFT TASSEL BINDING

ソフトタッセルの基本

飾り房の装束技法

バイディングは、タッセルの形に組立てる接合を強く意識した、装束テクニックを意味するものです。

房糸の部位ごとに、縛って束ねたり留めて固定する一連の作業手順をバイディング（タッセルの束ね方）と総称します。広い意味で「タッセルの結び方」と混同されますが、結び方は束ね方の接合方法になるため分けて捉えることが大切です。

ソフトタッセルと形容されるのは、糸だけで房状に束ねた感触が柔らかく優しい房飾りに仕上がるからです。房糸を撚り紐で結束して、一体に設えた構造になるためワンピース型とも呼びます。掛け紐（ハンギングコード）の「結び」と、首元（ネック）を巻いてスカート状の房に束ねる「縛り」によって作ります。バイディングは「結びと縛り」を巧みに組み合わせることで、タッセルの先頭部に典型※として表れてくるのです。

本書は、ソフトタッセルの形に関心を持ったことで、バイディングの基本手法とは何かを考察し、創作レジュメとして記録したものです。元書（2015-2022）は3種類の典型※について説明したものでしたが、私なりにタッセルの基本結びの全体像が固まったことから（2024）、タッセルの基礎技法でマスターしておくべき、バイディング・ヘッド型を取り上げて説明することにしました。タッセルづくりを始める上で、少しでも役立つのであれば幸いです。

2024年 Tassel N

※3種類の典型：バイディングヘッド／タイネックダウン／サスペンドヘッド

1. ソフトタッセルとは何か

糸だけで房状に束ねた感触が、柔らかく優しい房飾りを総称して「ソフトタッセル」と呼ぶ。

■ タッセルと結び

タッセルは房状に作る成り立ちにおいて、各種の形態に構成していくものです。最もこれらの元にする基本的な要素は、タッセルの本体を構成する「フォーム」（ヘッドからスカートまで）と、フォームを結束する「コード」（撚り紐）です。

房状に糸を束ねてタッセルの姿形にしたフォームを、糸を撚り合わせて強くしたコードで束ねるのです。こうした基本的なタッセルは、束にした房糸を直にコードで結束して房にしてい、基本的な結びを用いたタッセルの手法です。

■ ソフトタッセルとは

「ソフトタッセル」は形容した名称であって、タッセルの姿形を定義したものではありませんが、対照に「ハードタッセル」と表現することは、繊維素材を用いたタッセルにはありません。

ソフトタッセルは、「糸だけで房状に束ねた感触が、柔らかく優しいタッセル」を表現したもので、「房糸を撚り紐で直に結束して、一体に設えたタッセル」と定義することができます。ソフトタッセルは、本体のフォームを一体として作ることで、ヘッド、ネック、スカートという基本コンポーネントに区別され、それらの各要素を関連づけながら束ね上げていくのです。

タッセル全体が一つの房で作られることから「ワンピース型タッセル」や、「ワンパート型タッセル」と呼ぶこともあります。それは、フィニアル（頂華飾り）を用いたタッセルのように、フォームの一部に装飾的なパーツを組み込んだ「ツーピース型」や、ヘッドやボディとスカートを分けて組み立てる「セパレート型」があるからです。こういったタッセルの形態から、タッセルとは何か？ということ伝える難しさを感じますが、深奥なタッセルの魅力であり、作り手の意図を自由に拡げてくれているのです。

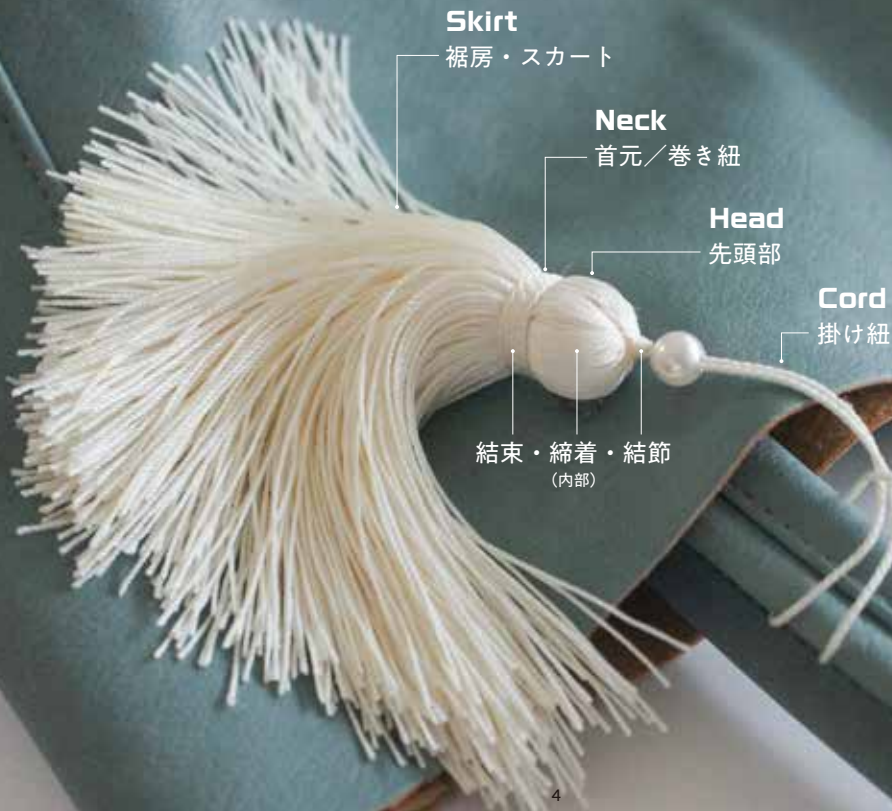
2. ソフトタッセルの基本部位・名称

房全体が一体になるソフトタッセルは、タッセルの部位・各要素を関連づけながら結び上げていく。

ソフトタッセルの基本コンポーネント

ソフトタッセルは、輪状に結んだ一本の撚り紐を掛け紐にして、房糸に締着して先頭部をつくり、首元で束ねるまでの一連の結び方・縛り方・束ね方を手順とするのが“バイディング”です。

ソフトタッセルは、掛け紐（ハンギングコード）を軸にして、ヘッドからスカートまでを一体に作ることで、一つの房の中でヘッド（先頭部）、ネック（首元）、スカート（裾房）に区別されていきます。ソフトタッセルの姿形は、最終的に全体が一つになるため、各要素との関連づけ方を、バイディングの中で計画することが重要になってきます。



material : silk thread

Binding head tassel

3. バインディング・ヘッドの手法

ハンギングコードで房糸を束ねて結び、結んだ支点から房糸を折り曲げ、ネックを結束してヘッドとスカートに分ける。

| 結節・締着・結束の基本

ソフトタッセルの中で、最も基本的な装束手法を用いたタッセルは、ハンギングコード（掛け紐）をヘッドの頂点に結んで房にする、バインディング・ヘッド型です。

バインディング・ヘッドは、「結節、締着、結束」の3つの結びを連動して用います。引き揃えた房糸の中程で、ヘッドにする頂部を締着し、房糸のヘッドを折り曲げて、ネック（首元）にする部分を結束して房にします。ハンギングコード、ネックコード（束ね紐）、房糸の各部位ごとに作業を行なっていきます。

| ハンギングコードと結節

バインディング・ヘッドの軸になるパートは、ハンギングコードに結節をつくり房糸に固定することです。ループさせた紐の結節が外形の意匠となって現れるため、強く美しい結び目が望まれます。

ハンギングコードの結節を支点にして、ヘッドから房糸を収束するためには、強固な結び方で締着させる必要があります。仕上げ段階で用いるネックの巻き紐は、ハンギングコードと同一もしくは、別仕立ての巻き紐で結束して房全体を形づくるのです。

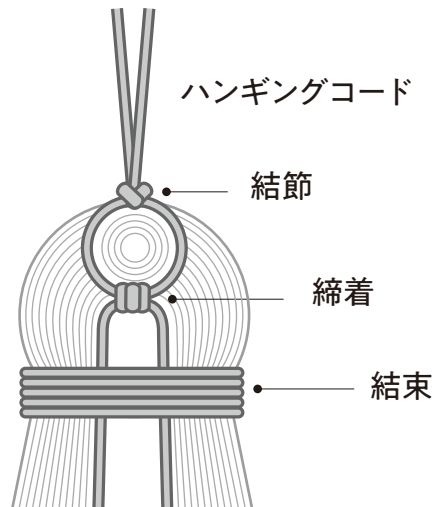


【房糸のベンド(折り曲げ)

バイディング・ヘッドの房糸は、支点にする先頭部から二つに折り曲げる“ベンド”という手法を用います。ハンギングコードの結節と締着で房糸を収束させるため、ベンドによってヘッドは球体に近い形に形成されます。また、折り曲げた房糸を一つの束状に合わせると、先頭部の結節から両サイドに合わせ目ができて、タッセルに表向と裏向ができるのです。



【バイディング・ヘッドの断面図】



創作のヒント

ハンギングコードの結節は、房づくりの起点になる部分です。結節を固定して、房糸にハンギングコードを締着し、房糸ごと収束させるわけです。締着した結節は、ベンドした房糸の中に隠してしまいます。ネックの結束は、ベンドした房糸の収束と同時に、結び残した終端を房糸の内側に固定する重要な束ね方です。

Spooling

4. 房糸づくり

房糸のバイディングは、房糸を真直ぐ巻き取り、均一に引き揃えて糸の密性を高めることが重要。

| 房糸の巻き取り方・引き揃え方

バイディング・ヘッドは、先頭部の結節と締着でタッセル本体の骨格をつくるものですが、単なる房糸に束ねるのではなく、束ねた糸を均等に曲げて先頭部を形成しなければ、美しい糸の流れを表現することができません。そのためには、糸を巻き取りながら引き揃えていく作業がとても重要なのです。

房糸づくりは、糸を真直ぐ均一に引き揃えるスプーリングという手順を踏みます。糸を真直ぐ引き揃えることで、束ねた糸の密性が高まるからです。伸縮性を持った繊維素材は、糸を張った状態にして束ねると、糸の反発で結束が締まり、房糸が緩みにくくなります。房糸づくりは、バインドに適した状態をスプール上に作るための重要な作業なのです。

バイディング・ヘッドは、結び目に加わる力が均一でなければ、ハンギングコードが先頭部から真直ぐ立ち上がりません。また、結節と締着のバランスで先頭部の密度を保つため、先頭部に対する結びがしっかり固定できなければ、バンド後の形に緩みが生じて糸抜けする原因にもなります。

【房糸の巻き取り・引き揃え】



タッセル用スプール (オリジナル/タッセル & カルトナーージュ)

Knotting

5. タッセル結びの基本

タッセルの結び方は、形・大きさ・素材・部位・意匠等に応じて、適切な結びの手法を用いる。

｜ 入門的な掛け紐の結び

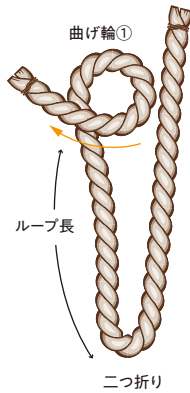
掛け紐の作り方は、一本の紐をループさせて結ぶ際にできる“結節法”を意味します。掛け紐づくりは、タッセルの種類に応じて多様な結び方があり、結び目を意匠の一部とするバインディング・ヘッドには、数種類の結節法を用いることができます。中でも、基本的な結び方のひとつ“輪結び”（イングリッシュマンズ・ループ・ノット）は、タッセル結びの入門的な結節法です。

｜ 輪結び（イングリッシュマンズ・ループ・ノット）

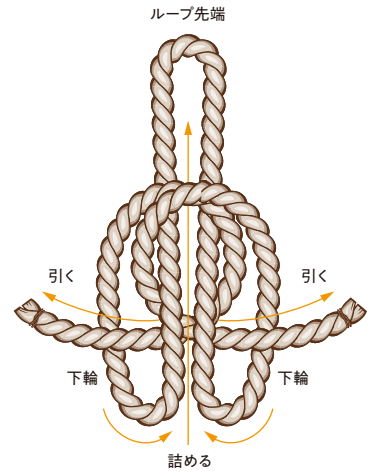
二つ折りした紐の終端を輪状にして重ね、ループした先端を輪にくぐらせて引き締めて結ぶ様から、「輪結び」（イングリッシュマンズ・ループ・ノット）と呼ばれる結節法です。結び目の表目が二重の糸目で揃い、掛け紐と引き紐が二本並んで引き揃うことが特徴です。入門的な結び方のため、結び目の強さはあまりありませんが、少しずつ引き締めながら結び目を固めていきます。



イングリッシュマンズ・ループ・ノット（表目） | Englishmans loop knot



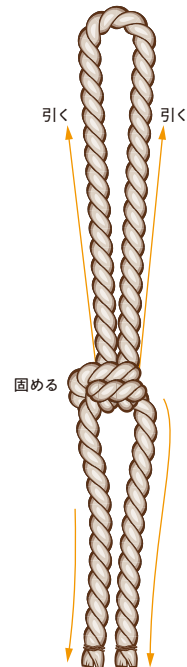
- 1** ハングングコードを二つ折りし、ループに使う長さを残して、曲げ輪①をつくり表方で重ねて端を逃す。



- 4** ループに残した先端を下から折り返して、重ね合わせた曲げ輪の表方から通して裏方へ抜き通して引き上げる。ループの先端を上へ引き上げながら、下輪の弛みを取り、曲げ輪①②の引き紐を引いて結び目を詰めていく。



- 2** もう片方にも曲げ輪②を同じ大きさでつくり、表方で重ねて端を逃す。



- 3** 曲げ輪①を裏方にして、曲げ輪②を表方にして重ね合わせる。

- 5** ループした紐と、引き紐を引き締めながら結び目を固める。

｜ 結節から締着へ

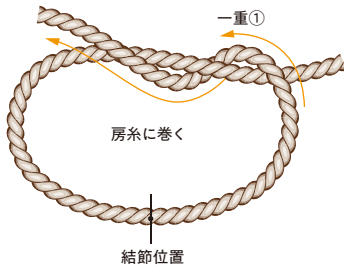
バイディング・ヘッドは、ループさせたハンギングコードの結節を支点にして、引き紐を開いて房糸に巻いて縛ります。その際、結節の締め方が甘いと、引き紐を引くと結び目が開いたり歪んだりするほか、結節から結びズレしていくため、適切な結び目の固さで締着することが肝心です。



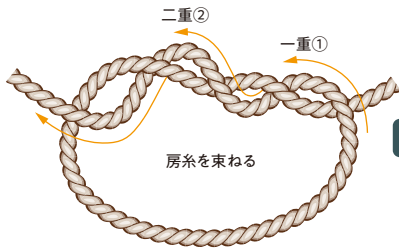
｜ 締着法“サージョンズ・ノット”

房糸を縛る締着は、文字どおり「締めて着ける」ことですから、ハンギングコードの結節を房糸に着けて固定することが目的です。その際、結節位置を固定したまま、強く締着しなければなりません。締着法は、“外科医結び”と呼ばれる“サージョンズ・ノット”(Surgeons knot)が基本です。

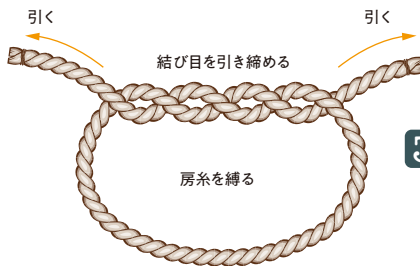
サージョンズ・ノットの結び目づくりは、下結びで引き締め、上結びで止める強固な結び目が、解けにくいことで知られています。下結びに、ダブルオーバーハンド・ノットで房糸を引き締めて、ハンギングコードの結節を房糸に固定します。上結びは、オーバーハンド・ノットで結び目を固めて止める手順です。



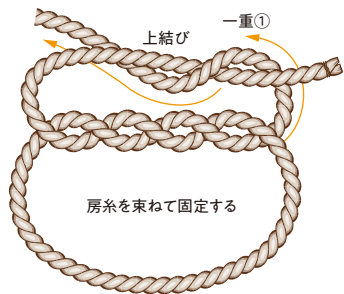
1 ハングングコードの結節を房系にあてて引き紐を開き、一回巻いて表方から一重①にくぐらせる。



2 さらに表方から二重②にくぐらせて結び目を揃え、引き紐を引いて結び目を詰めていく。



3 詰めた結び目を整えて、引き紐を引いて房系をしっかり縛る。同時に引き締めた結び目を固めて、下結びを終える。(これでダブルオーバーハンド・ノット)



4 下結びの引き紐で上結びをする。上結びは、下結びとは逆の裏方から一重①だけで結び終える。



5 上結びの引き紐を引き締めて、結び目を固めて整える。(これでオーバーハンド・ノット)



6 房系に締着したハングングコードの断面図です。中央の輪の中に房系が入って、束ねられている状態を示したものです。サージョンス・ノットは、巻き数が多いため、結びが横に広がるため、房系の内側に隠れるよう結びます。また、端紐からはみ出さない程度の長さを残してカットします。

Bend

6. 房糸のまとめ方

ヘッドを結んだ房糸を美しく折り曲げるには、ヘッドの密度を高めて糸流れを整えて糸裾を揃える。

｜ 房糸のベンド

バイディング・ヘッドは、房糸をヘッドの結節点で二つ折りにして姿形をつくるものですから、スプールから房糸を取り外す際には、引き揃えた房糸が崩れてしまわないよう、慎重に取り外すことが大切です。巻いて取り外した房糸は、房糸がループしたままの状態ベンドさせることが重要です。この段階で房糸を切り揃えてしまうと、糸が絡み合ってしまうのです。

引き揃えた糸の流れを保ったまま、ネックをバインドすることで、締着したヘッドの密度が保持されます。ヘッド内の糸が不揃いだと、ヘッドの形が偏り、糸抜けしやすくなるのです。

｜ 房糸のスタック

ベンドさせた房糸の糸流れは、手櫛で整える程度で十分です。ハンギングコードから房糸を吊り下げて、結節点から房糸を自然にベンドさせます。(p.6 画像を参照) 結節点から糸の流れが揃っているかを確認して、タッセルスタッカーに房糸を通します。



束ねる・揃えるための基本

房糸の形を美しく整えるために大切なことは、糸を揃えて束ねることです。単純な作業のように思えますが、タッセルのシルエットを美しくつくる5つのポイントがあります。

①ヘッドの糸が交差しないこと、糸が偏らないこと、②糸の密度を保つこと、③糸を揃えて切り揃えること、④糸流れをつくること、⑤糸目を揃えること。特にソフトタッセルには、房糸を揃える“スタッカー”で房糸をまとめる作業をします。スタッカーは、タッセルの太さに合わせて使う筒状の道具です。スタッカーの長さは、タッセルに応じた長さで使い分けるもので、筒をつまんで潰せる程度の軟質ポリエチレン素材が最適です。スタッカーの役割は、ヘッドの成形、房糸のしつけ、ネックのバインド、スカートのトリミングに有効なツールです。

使い方は、筒の中にハンギングコードを通して引っ張り、筒の中に引き込んで房糸を詰めます。筒の中で糸の密度を高めて、結束しやすくしておくのです。スタッカーから出したヘッドは、ハンギングコードの結節から房糸が均等に折り曲がった状態で、ネックの位置を結束するのです。



｜ 下糸の使い方

直接、巻き紐だけで束ねることもありますが、あらかじめ下糸で縛って結束位置のアタリを付けておくと、作業性が良く綺麗に仕上がります。ストレートな姿形で起伏がないソフトタッセルでは、結束紐のズリ落ちや解けを防ぐメリットになります。タッセルで用いる下糸は、あらかじめ縛っておくための細く丈夫な縫い糸（#40）を用います。下巻きにはサージョンズ・ノット（P.11 参照）、上巻きには、アメリカン・ホイッピング（端止め結び）を用います。



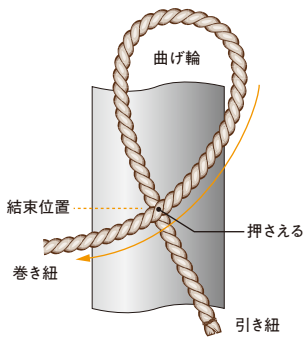
下糸の縛り（サージョンズ・ノットを用いるのが基本）



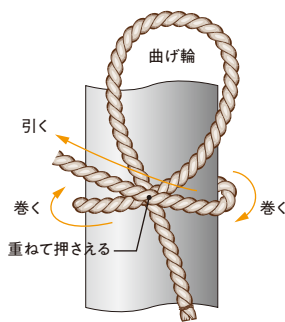
アメリカン・ホイッピング（撚り紐の端を巻いてほぐれないようにする束ね方）

基本結束法 “アメリカン・ホイッピング”

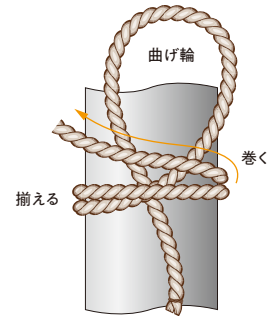
下巻きの上からホイッピングで結束の仕上げをします。ホイッピングは、結束と意匠を兼ねてネック部分を撚り紐で巻いていくものです。掛け紐と同じ太さもしくは細い撚り紐を用品です。一般的な巻き回数は4～6回です。



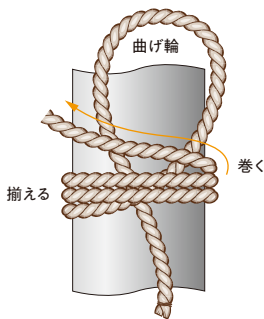
1 ネックの裏方の中央で、引き紐を固定し、曲げ輪をつかって表方で重ねる。



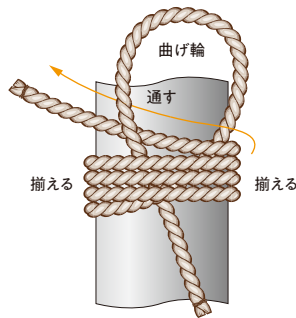
2 表方で重ねた巻き紐を一回巻いて、結び位置に重ねて押さえ、引き紐を固定する。



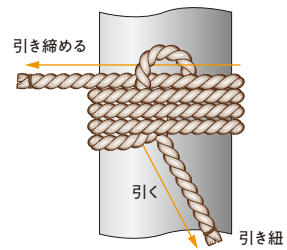
3 さらに巻き紐を巻いて、結び位置から揃え上げていく。



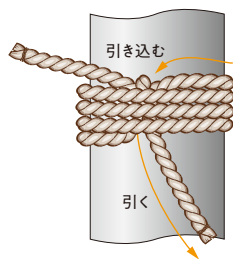
4 さらに巻き紐を巻いて、結び位置から揃え上げていく。(4回巻き)



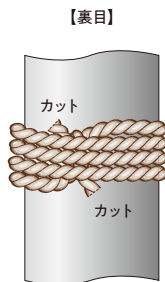
5 最後の巻きは、曲げ輪の表方から抜き通し、全ての巻き揃えを整える。



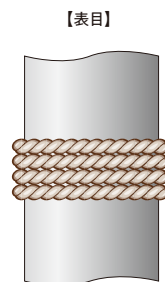
6 抜き通した巻き紐を引き締めながら、引き紐を引いて曲げ輪を詰めていく。



7 さらに引き紐を引いて、最後の巻き紐を、巻き揃えた紐の内側に引き込む。



8 巻き紐と引き紐の両端をカットする。



9 巻き紐の揃った表目で完成。

トリングと仕上げ

房糸の裾を切り揃えて、タッセルのスカートに仕上げる工程をトリングといいます。ソフトタッセルの美しさは、ヘッドからスカートまでの、房糸の流れ方で決まるといってよいほどです。

トリングは最後の仕上げに行うもので、ネックをバインドしてから束ねた房糸の長さが定まります。束ねたままの房糸を真っ直ぐ切り揃えるためにも、房糸の長さを揃えるスタック作業が肝心です。スタッカーで揃えた房糸を真っ直ぐカットし、スタッカーを取り外して細かな裾揃えで完成します。



タッセルスタッカー（オリジナル/タッセル & カルトナーージュ）



｜ バインディングの基礎要素技術

今後ソフトタッセルを、単一の装飾機能をもたせた房飾りとして創り出すためには、確かな基礎要素技術が必要になってきます。本書では、ソフトタッセルの基本になるバインディング・ヘッド型について述べてきましたが、バインディングとは、房状に整えるための技法でありながら、タッセルづくりを考えていくための基礎になる骨格を有しています。タッセルの基本を説くにあたり、バインディングの基礎要素技術が重要な役割を果たしていくと考えています。

Tassel Assemblage SOFT TASSEL BINDING ソフトタッセルの基本

2024年12月21日 第8版

2011年4月1日 第1版

著者 Tassel N

発行 Tassel&Cartonnage / PASSAMANO.JP

<https://www.passamano.jp>

本書は著作権法上の保護を受けています。本書の一部あるいは全部について、著者、発行者の許諾を得ずに、無断で複写、複製することは禁じられています。

TASSEL & CARTONNAGE

Copyright © 2011-2024 Passamano All rights reserved.

Published by PASSAMANO.JP

Text, Illustration, Photography, Design, Original Japanese edited by Tassel N

First edition 2011.4.1